

ダイキン工業株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：一般機械器具製造業 ● 事業概要：業務、家庭用空調機の開発、設計、生産、販売、保守など、フッ素化学事業、その他 ● 事業規模[任意]：20,440億円、67,036人（2016年度）
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>05年度比25年度までに、CO2排出量（絶対量）を75%削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Iレキ[®]-起源CO2は、Iレキ[®]-の見える化による更なるムダの削減・生産性の向上、新たな塗料の開発など技術開発による省エネ、再生可能Iレキ[®]-の購入などを実施。 ・ノン起源CO2は、溶剤など物質の代替化、更なる回収・破壊の推進、再生利用の促進などを実施。 <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・16年度比25年度までに売上げあたりCO2排出量を30%削減。 ・低GWP冷媒使用の空調機の開発、設計、生産、販売、回収。 ・インバータ搭載した空調機など高効率省エネ機器の開発、設計、生産、販売。 ・ヒートポンプ[®]式給湯・暖房機器の開発、設計、生産、販売。

ダイキン工業株式会社

項目	内容																																																
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<p>● Scope 1・2・3の排出量の状況</p> <table border="1"> <caption>GHG Emissions (万tCO2)</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Scope 1</th> <th>Scope 2</th> <th>Total</th> <th>Target</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2005</td> <td>481</td> <td>44</td> <td>525</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>150</td> <td>49</td> <td>199</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>2015</td> <td>118</td> <td>59</td> <td>177</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>92</td> <td>65</td> <td>157</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>2025</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>131</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>2035</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>105</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>2050</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	Year	Scope 1	Scope 2	Total	Target	2005	481	44	525	100	2010	150	49	199	38	2015	118	59	177	34	2020	92	65	157	30	2025	-	-	131	25	2035	-	-	105	20	2050	-	-	-	-	<p>● Scope 1 : 4,810,000 [tCO2]</p>							
Year	Scope 1	Scope 2	Total	Target																																													
2005	481	44	525	100																																													
2010	150	49	199	38																																													
2015	118	59	177	34																																													
2020	92	65	157	30																																													
2025	-	-	131	25																																													
2035	-	-	105	20																																													
2050	-	-	-	-																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>割合</th> <th>2016</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1.15%</td><td>2,252,671</td></tr> <tr><td>2</td><td>0.13%</td><td>259,161</td></tr> <tr><td>3</td><td>0.03%</td><td>63,006</td></tr> <tr><td>4</td><td>0.01%</td><td>22,954</td></tr> <tr><td>5</td><td>0.01%</td><td>23,004</td></tr> <tr><td>6</td><td>0.01%</td><td>13,239</td></tr> <tr><td>7</td><td>0.00%</td><td>2,868</td></tr> <tr><td>11</td><td>98.50%</td><td>193,710,839</td></tr> <tr><td>12</td><td>0.01%</td><td>15,865</td></tr> <tr><td>15</td><td>0.15%</td><td>297,181</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>196,660,788</td></tr> <tr><td>売上げ</td><td></td><td>20,440</td></tr> <tr><td>原単位</td><td></td><td>9621.37</td></tr> </tbody> </table>	カテゴリ	割合	2016	1	1.15%	2,252,671	2	0.13%	259,161	3	0.03%	63,006	4	0.01%	22,954	5	0.01%	23,004	6	0.01%	13,239	7	0.00%	2,868	11	98.50%	193,710,839	12	0.01%	15,865	15	0.15%	297,181			196,660,788	売上げ		20,440	原単位		9621.37	<p>● Scope 2 : 440,000 [tCO2]</p> <p>● Scope 3 : 196,660,788 [tCO2] カテゴリ、9,10,13,14は除く 目標の対象セクター： その他製造業</p> <table border="1"> <caption>GHG Emissions per Unit of Sales (t-co2)</caption> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016実績</td> <td>9,621t/億円</td> </tr> <tr> <td>2025予測</td> <td>6,735.0t/億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>売上げ高 2016実績 20.440 ⇒ 2025予測 30,000 億円</p> <p>▲30%</p>	Year	Value	2016実績	9,621t/億円	2025予測	6,735.0t/億円
カテゴリ	割合	2016																																															
1	1.15%	2,252,671																																															
2	0.13%	259,161																																															
3	0.03%	63,006																																															
4	0.01%	22,954																																															
5	0.01%	23,004																																															
6	0.01%	13,239																																															
7	0.00%	2,868																																															
11	98.50%	193,710,839																																															
12	0.01%	15,865																																															
15	0.15%	297,181																																															
		196,660,788																																															
売上げ		20,440																																															
原単位		9621.37																																															
Year	Value																																																
2016実績	9,621t/億円																																																
2025予測	6,735.0t/億円																																																

項目	内容
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● モトリール議定書キガリ改正（以下キガリ改正）に伴い、現在使用中の冷媒をCO2換算で段階的に削減する必要があり、低GWP冷媒を使用した空調機の開発が出来ないと空調機生産台数が制限され、事業拡大が出来なくなるリスクがある。一方で他社に先駆け開発出来れば事業拡大の機会になる。 ● 気候変動に伴い猛暑などが予想されるが、空調機は快適な生活環境を創るには必需品である。しかし空調機は電気を多く使用するので気候変動の要因となる。省エネ製品を普及することで快適な生活環境と温暖化抑制に貢献できる。 ● 化学事業は、生産工程で多くの水を使用するが、安定した水を確保出来なくなると安定的な操業が出来なくなる可能性がある。
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の拡大と環境貢献の両立を経営の基本方針として位置づけた。この効果を具体的に数値化し進捗を管理するため設定。 ● 2024年が操業100周年にあたり、中長期的な視点での目標のために設定が必要。 ● 自社で設定した削減目標が、パリ協定に貢献できるようにSBTの考え方にに基づき目標を設定し、社会に発信することで顧客や投資家からの要請に応えることで社会からの信頼を得る。

ダイキン工業株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境部門で目標案を検討、CSR委員会で審議し、役員会で承認を得た後、SBTにシフトに提出。 ● Scope1,2に関しては、Scope1起源の排出量で過去成果を出したが、その対策がほぼ終了し、削減量が頭落ちになっている。一方でScope2起源の排出量は事業の拡大（M&Aや工場の増設）や事業形態の変化（部品の内作生産）などで増加傾向にありScope2起源CO2排出量の削減に本格的に取り組む必要がある。 ● Scope3に関しては、新興国の冷媒の代替化を世界に先駆けて推進してきた。 ● 空調機の省エネ対策は、インバータ機の拡販や燃焼暖房をヒートポンプ方式に変換することでCO2排出量削減に取り組んでいく。 ● 機器単独の省エネだけではなく建物の省エネ対策や再生可能エネルギー利用も含めた、トータルでCO2削減を行う事業展開が必要である。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope1,2では、省エネに関する生産ラインでの技術開発。 ● Scope3では、キガリ改正に対応するために冷媒充填量の削減や回収率向上。更なる低GWP冷媒の開発。